

【会議録】

会 議 名	第2回防災行政無線更新にかかる整備方針策定支援及び基本設計業務委託事業候補者選考委員会
開 催 日 時	令和8年6月1日（月） 10時00分から11時15分まで
開 催 場 所	港区役所 512 会議室
委 員 員	芝浦工業大学情報通信工学科教授 行田 弘一（委員長） 港区防災危機管理室長 佐藤 博史（副委員長） 国立研究開発法人情報通信研究機構ネットワーク研究所長 井上 真杉 神奈川工科大学情報学部メディア学科准教授 上田 麻理 港区企画経営部情報政策課長 矢ノ目 真展
事 務 局	防災危機管理室防災課長 白石 防災危機管理室防災課防災政策係長 高野 防災危機管理室防災課防災政策係 大林
会 議 次 第	1 開会 2 第一次選考結果（案）について 3 第二次選考（案）について 4 閉会
配 付 資 料	資料1 第1回防災行政無線更新にかかる整備方針策定支援及び基本設計業務委託事業候補者選考委員会会議録（案） 資料2 防災行政無線更新にかかる整備方針策定支援及び基本設計業務委託事業候補者選考一次審査集計結果（案） 資料3 第二次審査採点基準表（案） 資料4 第3回選考委員会進行スケジュール（案） 資料5 第二次審査共通質問及び質問順（事務局案） 参考資料 防災行政無線更新にかかる整備方針策定支援及び基本設計業務委託事業候補者募集要項（別紙・各様式・参考資料を含む。）
会議の結果及び主要な発言	
（発言者）	
委員長	1 開会 （開会の挨拶） 資料1の会議録について確認したい。修正等の意見はあるか。 （委員一同、異議なし）
委員長	原案どおりで確定とする。
委員長 A委員	2 第一次選考結果（案）について （事務局による資料の説明） 事務局の説明を受け、各委員に採点の講評をお願いしたい。 両社ともこの業務に携わっていただけるスキルはあると書類上は判断した。

B 委員	A事業者について、スケジュールに中間報告や予備期間が設けられている点を評価した。また、港区を俯瞰した分析から更新に至るまでの検討がされている点も評価した。新たなシステムの実現性という点では、情報の流れを収集から管理、共有、分析、配信という形で整理しており、過去の経験から災害情報のボトルネックを発生させないという意識が見られる点も評価できた。さらに、AI の活用によって、やさしい日本語など、伝わりやすさを意識した構成となっており、全体のフロー図も分かりやすく整理されていると感じた。
	B事業者については、港区の受信障害を分析した上で将来に向け、比較検討した上での提案となっている点は評価できる。また、意見を取り入れながら提案に落とし込んでいる姿勢、全体構成において現状の弱点を指摘している点も評価できる。フローについては比較的シンプルだが、情報の配信メディアについては一定程度整理されていると感じた。この事業者は課題抽出型の解決提案型であり、課題解消を目的とした提案がなされていると判断した。
	両事業者とも一定水準には達していると感じた。評価は設計の深さや実務適用性に応じて加点する形とした。
C 委員	A事業者は、業務体制、冗長性、情報伝達フロー、スケジュール等について、全体的に設計の具体性と網羅性が高い提案になっていると感じた。特に、携帯通信を組み合わせた多層的な冗長構成、また情報の収集・管理・配信の役割分担の整理がしっかりできており、災害時の運用を見据えた実効性の高い設計であると評価した。一方で、システム比較については、複数パターンの提示に留まっており、定量的な評価プロセスとしては改善の余地があると判断した。
	B事業者は、複数のシステムについて機能とコスト面で点数化し順位付けしている点が明確であり、比較検討のしやすさという点、操作性の改善や職員の負担軽減に着目している点も評価した。ただし、冗長性の構成や情報伝達フロー、スケジュール、費用算出の部分については、A事業者と比較すると具体性が不足していると感じた。
	以上を踏まえ、本業務は将来の整備に直結する重要な業務であるため、リスク低減と設計の確実性という観点で評価した。総合的には、設計の確実性と実効性に優れているA事業者の方が高い評価となった。
C 委員	両事業者ともに本業務は実施できる事業者だと判断した。評価にあたっては、仕様書に記載されている要件を満たしているかどうかという観点で評価した。
	A事業者については、港区の状況をよく考えた提案になっているという印象を受けた。提案全体を通して、区の実情を踏まえた内容になっていたと思う。
	一方で、B事業者については、複数のシステム、例えば5つ程度のシステムを提示して、それぞれを比較しているという点があり、既存の各システムに対する知見があり、比較検討にも慣れているのではないかと印象を受けた。比較という観点において強みを持っている事業者だと感じた。
C 委員	いずれにしても、両事業者ともに実績があり、業務遂行能力としては問題

D委員	ないと判断している。最終的に重要になるのは、システムを選定していくプロセスやコストと性能のバランス、いわゆるトレードオフをどのように整理しているのか、またそれを区にどう提示できるのかという点だと考える。その観点で見たときに、B事業者については、情報フローの役割分担や経費の考え方の部分にやや不透明なところがあるように感じた。その点については、二次審査のヒアリングで確認したい。 両事業者とも標準的な部分については満たしているのではないと思う。 ただ、その上で差をつけるとすると、A事業者の方がやや良いという印象を持ち、点数に差が付いている。全体としてはA事業者が上回っていると感じた。
E委員	A事業者について、様式6では、体制がBCPに備えたものになっているという点は標準的と判断した。スケジュールについては、9月の予算要求時期をしっかりと認識されている点が見受けられたため、その点は評価した。 様式7は、老朽化対応に関して、沿岸部の調査など専門家の関与が見られる点、また複数言語への対応や高齢者・子どもに配慮したやさしい日本語への自動変換など、情報伝達手段の工夫について評価した。さらにFAXの代替としてタブレットや音声・画像といったマルチメディア活用の提案もあり、この点も評価している。 操作性についても、スマートフォン端末の導入を検討するなどの提案があり、評価できると考えた。また、3Dの音響シミュレーションに加えて、現地調査や必要に応じた実機比較を行うという提案があった点も評価した。 運用の持続性については、他自治体の事例を参考に保守内容や点検項目を整理するという考え方が示されており、この点も評価した。 冗長性の観点では、港区の既設設備の調査を踏まえ、スターリンクの活用なども含めた提案がなされていることも評価した。さらに、携帯電話事業者の復旧手法なども踏まえ、大ゾーン基地局の活用可能性に言及している点も評価した。 様式8については、情報の収集・管理・共有・分析・配信という流れに沿って整理されており、収集や配信時の判断箇所がボトルネックであるという指摘も踏み込んだ内容として評価した。また、一度の入力で複数媒体へ配信する仕組みや、位置情報の活用など具体的な伝達ルールの提案も評価した。 様式9については、主要機器の二重化や自動切替、さらに本庁舎被災時における最低限の統制機能の確保などが示されており、運用面でも評価した。 操作性の観点では、タッチ操作などの導入も検討されている点が見受けられた。スケジュールについては妥当であり、整備費用についても概ね適切と考えた。 B事業者について、様式6はBCP要件を満たしているものの、スケジュール面での工夫はあまり見られなかった。 様式7では、現地調査を踏まえ、電波状況悪化の原因を建造物の変化と想定している点は認識したが、提案自体は比較的定型的な比較にとどまっている印象を受けた。港区特有の課題への踏み込みはやや弱いと感じた。 拡張性についても、各商用システムが持つ機能の比較にとどまっている印

	象。冗長性については、各システムが備える機能の提示はあるものの、踏み込んだ提案は見られなかった。 様式8については、複数システムの運用によりワンオペにならないという指摘はあったが、特別な視点とは言い難いと感じた。また、災害時の情報伝達フローについては、明確に整理されているとは読み取れなかった。 様式9については、運用に関する改善提案はあるものの、具体的な運用手法としての整理はやや不足している印象。運用課題として、同報系親局の操作性や高額な補修費などが指摘されていたが、それに対する具体的対応がやや弱いと感じた。費用算出についても積算手法の記載はあるものの、仕様書で求められている整備手法の記載が十分ではないと認識した。
委員長	意見交換に移る。何か意見はあるか。
C委員	システムの比較という点では、B事業者の方が分かりやすかった一方、全体の具体性やまとめ方についてはA事業者の方が優れているように感じた。
D委員	両事業者ともプレゼンテーションで見たい。現時点では決定的にどちらかに優劣がある状況ではないかなという印象。
C委員	私も同じように感じていて、両事業者とも本事業は実施できると考えられる。A事業者は港区の状況をよく踏まえている印象があり、B事業者は比較検討に強みがあると感じた。ただ、情報フローや経費の部分で不透明なところがあったため、二次審査で確認したいと思う。
	B事業者についても、二次審査で確認する価値は十分にあると認識している。
委員長	意見交換を踏まえ、採点を振り返る。変更がある委員はいるか。
	(変更なし)
委員長	A事業者 982点、B事業者 914点で確定とする。両事業者とも最低ラインの60%を上回っていることから、一次審査は通過ということではよろしいか。
	(異議なし)
委員長	A事業者、B事業者の2者を一次審査通過とする。
	3 第二次選考(案)について
	(事務局による資料の説明)
委員長	資料3から資料5について意見はあるか。
C委員	資料3の取組意欲の評価について、何をもって評価するのか少し曖昧に感じる。プレゼン能力なのか、熱意なのか、それとも実際に実行できる体制や姿勢なのか。営業と実務が一致していないケースもあるため、そこは気になる。
事務局	基本的には総合的に見て判断いただくことを想定している。
C委員	プレゼンと質疑応答で評価する構造になるが、共通質問についてはプレゼンと重複する可能性もあると思う。時間も限られているため、質問の整理は必要。
B委員	共通質問の必要性については少し疑義を持っている。一次審査ですでに各者の強み・弱みはある程度見えているため、同じ質問をするよりも、不明点や弱点を個別に深掘りの方が有効ではないか。ヒアリングで評価が変わる

A委員	可能性があるため、柔軟に対応できた方がよいと考える。 評価項目としては、資料3の1～3は資料で確認、4・5はヒアリングで評価、という性質の違いがある。この事業は税金を使い、人命にも関わるため、資料5の共通質問にある、本事業への理解や基本的な考え方については確認しても良いと考える。
E委員	A委員の意見のとおり、この質問は資料3の1のところはかなり重点的にかかわるところであり、この質問はあっても良いと考える。
B委員	共通質問の部分に関しては、区としての説明責任というところで合理性はあり、全部排除するという考え方はちょっと違うのかなというふうに考えを改め、共通質問は最小限にとどめるにせよ、必要だと感じた。
委員長	資料3については、事務局案でよろしいか。 (異議なし)
委員長	資料4のプレゼン資料の提出についてはどうか。
C委員	提案範囲を超えないのであれば、プレゼン専用資料を認める形でよいと思う。
A委員	プレゼン専用資料を認めることでよいと思う。ただし、事業者側があえて資料を作らず、すでに提出済みの提案資料で勝負するというのも選択肢としてはありかと思う。
委員長	それでは追加資料は認めるということでよいか。 (異議なし)
委員長	資料5の共通質問及び質問順についてはどうか。
A委員	少なくとも共通質問1つ目は確認が必要な項目だと思う。また、無線更新のスケジュールは重要な論点となるため、共通で聞いてよいかと思う。
B委員	いずれの質問も評価項目とも対応している内容で、共通質問として適切だと思う。
C委員	共通質問2つ目も評価項目と連動しているため、最低限の質問としては妥当ではないか。
委員長	質問順について、何か意見はあるか。 (委員一同) 事務局案で問題なし。
委員長	それでは、資料4のプレゼン資料の提出を認めること、共通質問及び質問順は事務局案で進めることとしてよろしいか。 (異議なし)
	4 閉会 (事務局から事務連絡) (閉会の挨拶)